

神奈川県内出土の弥生時代土器棺(1)

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

戦後における関東地方の弥生時代研究は、縄文時代から継続する在地の要素に対して、中期以降に波及する西方からの新しい要素との相関に主眼を置かれてきた。弥生墓制の研究も同様であり、近年では縄文時代後晩期から弥生時代中期中葉まで継続する再葬墓と、弥生時代中期中葉に造られはじめる方形周溝墓との葬制の転換過程が着目されるようになり、東京湾沿岸部の東西での地域差が言及されるなど、関東地方の各地域における地域差・時間差について議論されるようになってきている(安藤 2005)。

弥生時代研究プロジェクトチームでは、こうした多様性をみせる弥生墓制を解析するための視点の一つとして、再葬墓と方形周溝墓の両者に通有な要素である土器棺に着目し、その様相の変遷を追うことで、弥生時代全体を通じた墓制・葬制の転換と、その背景となる集団の在り方へのアプローチを指向することとした。

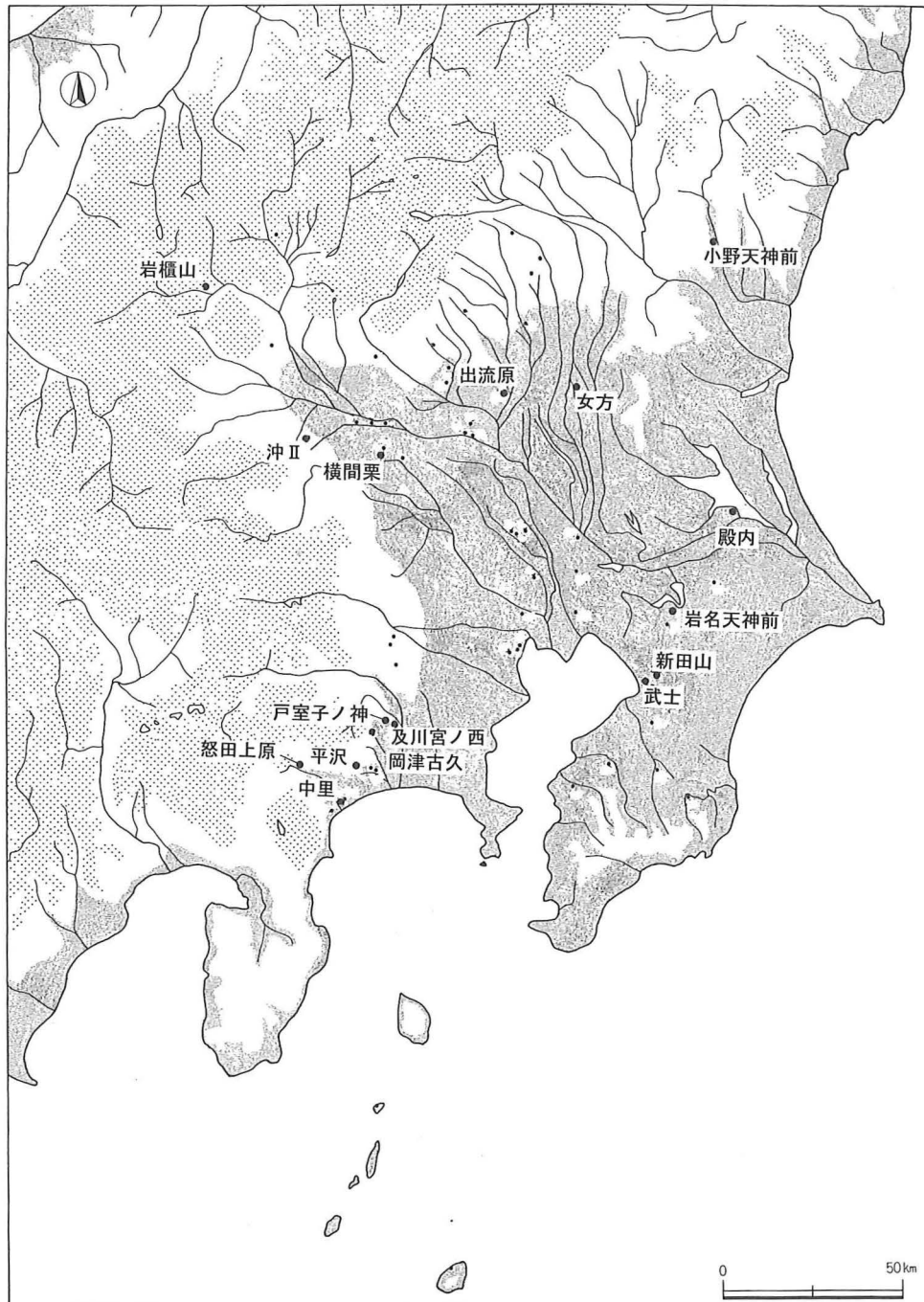
実際の作業としては神奈川県内出土の弥生時代土器棺について集成し、今回は中期中葉以前の事例について分析を行い、中期後葉～後期については引き続きデータの蓄積を図ることとした。資料の所属時期は、基本的に各報文の記述に基づいているが、出土土器等の観察から一部表記方法を変えて記載したものもある。集成結果は第1表にまとめ、遺跡番号は第3～5図の掲載順と対応させている。遺構・遺物は報告されている図を使用し、縮尺を遺構(及び出土状況図)1/60、土器1/8、石器1/4で掲載した。第1表の「図番号」は第3～5図中の遺物番号に対応している。データの集成は櫻井・渡辺で行い、本文を分担して執筆した。文責はそれぞれの文末に記している。(渡辺)

1. 中期中葉以前の墓制について

関東地方における弥生時代中期中葉以前の墓制は、複数の壺形土器を土器棺として利用し、洗骨葬を経た人骨の一部を納めた再葬墓(註1)が主体的である。これは関東地方に限らず、東北地方南部～甲信越地方までを含めた範囲で共通してみられる傾向でもある。ここで取り扱う再葬墓の中心的分布域は埼玉・栃木・茨城などの関東地方の北東側から福島県にかけての地域であり、本県はその分布域の縁辺部とも言える地域に属している。その一方で、現在までに本県で確認された該期の墓址に関連した遺跡は、大井町中屋敷遺跡、南足柄市怒田上原遺跡、秦野市平沢同明遺跡・平沢北ノ開戸遺跡、厚木市及川宮ノ西遺跡、相模原市緑区三ヶ木遺跡、厚木市岡津古久遺跡、同市戸室子ノ神遺跡、三浦市雨ヶ崎洞穴遺跡などである。このうち及川宮ノ西遺跡や戸室子ノ神遺跡などは発掘調査の成果として遺構・遺物の状況が明らかにされており、土器棺を用いた墓址であることが確認されている。また中屋敷遺跡については出土状況の詳細は不明であるものの、容器形土偶の内部に焼骨の存在が認められており、洗骨葬を用いた何らかの墓址である可能性が高い。事例のうち幾つかは不時発見などにより遺物のみ採集されたもので、埋没状況の詳細は判明していないが、出土時の状況から土器棺墓や再葬墓の可能性が高いものと判断されている。

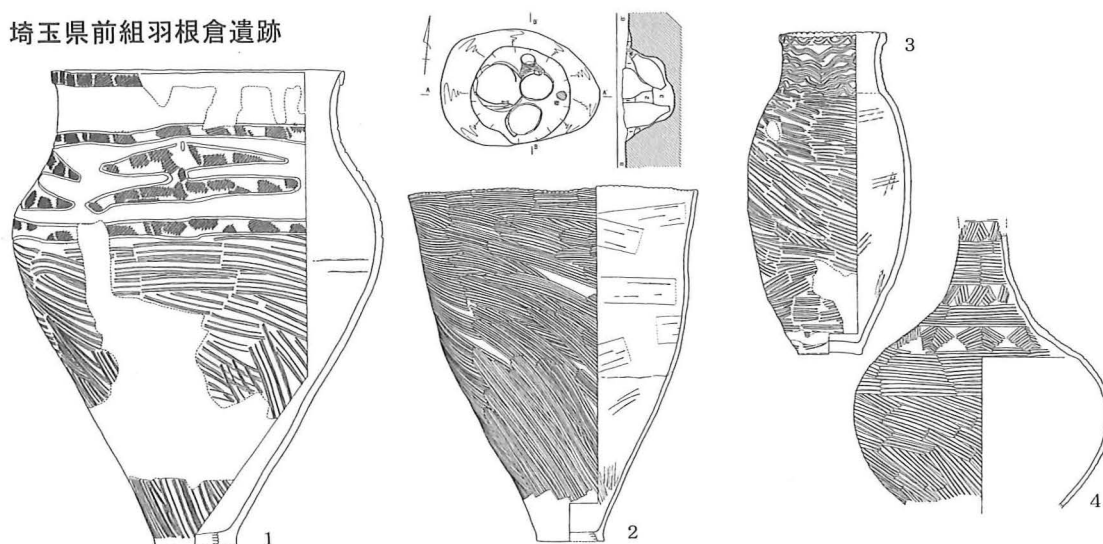
本県における弥生前期～中期初頭の遺跡の立地的特徴は、山地ないしは山地の裾に分布することにある。

これらの遺跡は全て丹沢山地とその周辺や大磯丘陵の裾部に位置しており、斜面地ないしは斜面地～平坦地への地形の変換点であることが共通している。本県以外でも東京都八王子市水崎遺跡、山梨県北杜市の下大内遺跡や上野原市南大浜遺跡、埼玉県児玉郡神川町の前組羽根倉遺跡（第2図上段）、群馬県吾妻郡東吾妻町の岩櫃山鷹ノ巣岩陰遺跡、渋川市南大塚遺跡など同様の立地環境にあるものがみられる（第1図）。その一方で、再葬墓の主たる分布域においては、群馬県藤岡市沖Ⅱ遺跡、茨城筑西市女方遺跡など平坦な台地上や沖積地それに河川の自然堤防上などの微高地に分布することが知られている。

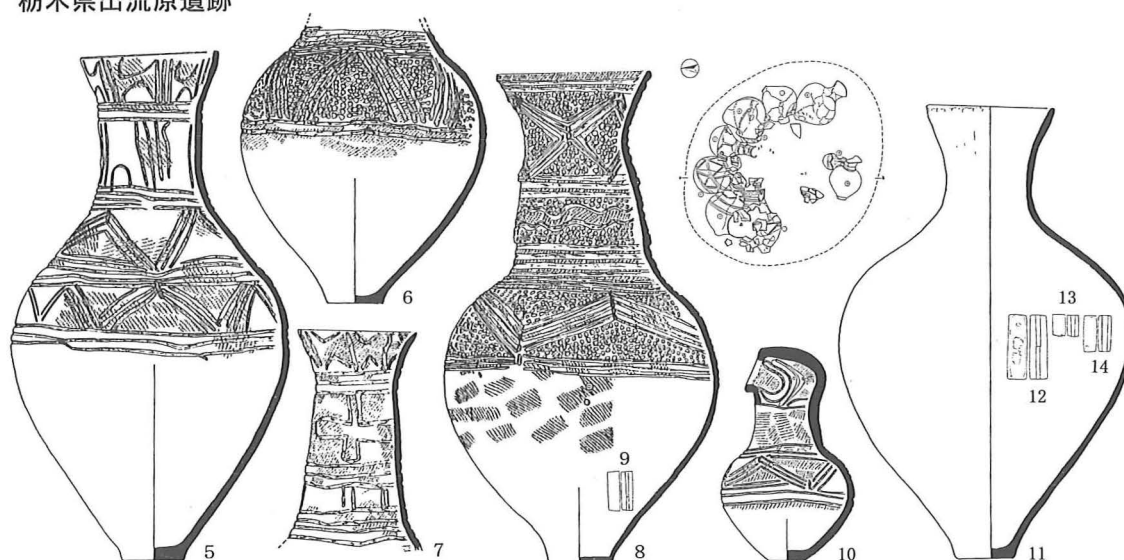


第1図 関連遺跡分布図〔二百万分の一〕

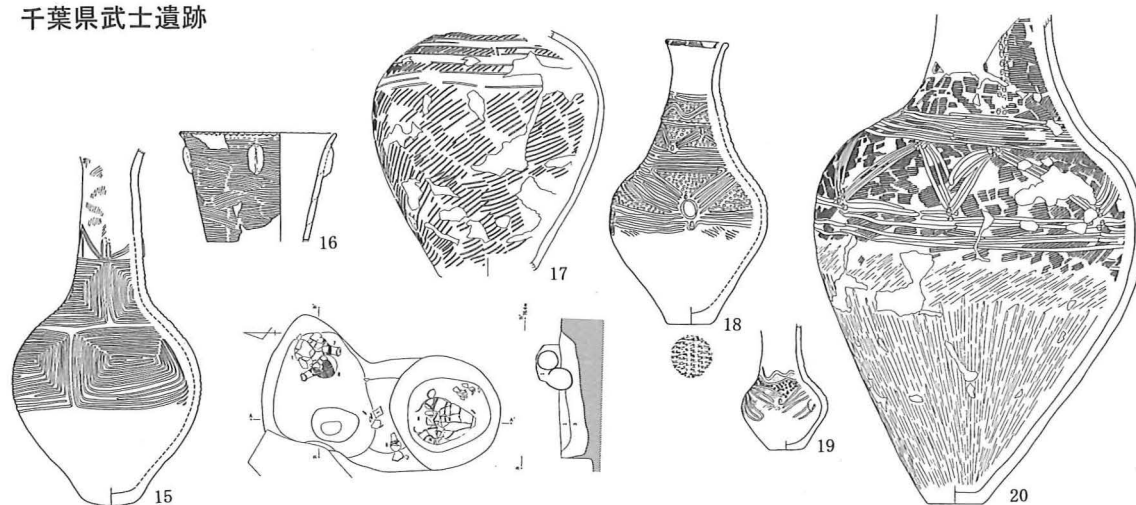
埼玉県前組羽根倉遺跡



栃木県出流原遺跡



千葉県武士遺跡



第2図 関東地域における再葬墓の検出例 [遺構図1/60、土器1/8]

こうした再葬墓では、一つの墓境内から複数の壺棺が出土する事例が一般的で、いわば集団墓地もしくは家族墓的な様相を呈している。この傾向は中期中葉末まで継続し、埼玉県深谷市上敷免遺跡、栃木県佐野市出流原遺跡（第2図中段）、千葉県市原市武士遺跡（第2図下段）で所謂複棺の壺棺再葬墓が確認されている。一方、本県の例や山梨県など再葬墓分布域の縁辺部においては単独の壺棺埋葬の事例が多くみられ、従来の複棺再葬墓よりも土器棺墓に近い単独埋葬墓的な状況を示している。これは再葬行為という共通の埋葬技法を用いているが、その埋葬を行う社会の状況に差異がある可能性が示唆される（註2）。

再葬墓に納められた土器の中で特徴的なものとして、容器形土偶や人面付土器、顔面画土器がある。本県では先述のとおり中屋敷遺跡の容器形土偶の出土例が知られ、同様の例が新潟県新発田市の村尻遺跡や山梨県笛吹市の岡遺跡に認められる。また人面付土器は女方遺跡・茨城県常陸大宮市小野天神前遺跡・和泉坂下遺跡などで、顔面画土器は茨城県筑西市北原遺跡や千葉県香取郡多古町塙台遺跡などで発見されている。

2. 県内遺跡の事例

（1）中屋敷遺跡

足柄上郡大井町山田に所在し、大磯丘陵西端部近くの足柄平野に面した西向き緩斜面上に立地する。容器形土偶の内部から被熱した小児骨が発見されているが、詳細は不明である。近年昭和女子大により学術調査が行われ、弥生前期の土器や土坑、それに炭化種子等の発見があったが、新たな墓址の検出はなかった。

（2）怒田上原遺跡（第3図上段）

南足柄市怒田に所在し、遺跡は標高100m程度の河岸段丘上縁辺部に立地している。1969年に調査されたA地区で中期初頭の土坑が3基検出された。1号土坑から小型の壺（第3図1）の他底部片2点（同図2・3）が坑底に横倒しになった状態で出土し、3号土坑からは覆土上層から甕の破片が出土している。

（3）平沢同明遺跡（第3図中段）

秦野市平沢に所在し、秦野盆地東南縁の扇状地先端部に立地する。前期後半の遠賀川系壺形土器が出土しているほか、壺2点（第3図6・7）と甕（同図5）が地権者の邸宅敷地内から出土した。この3点は推定復元図に示されているように、あたかも合わせ口の土器棺墓であるかのような状況で出土したものと資料報告されており（杉山1967）、土器の特徴から中期初頭に帰属するものと考えられる。

（4）及川宮ノ西遺跡（第3図下段）

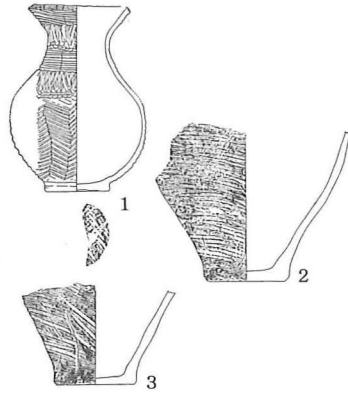
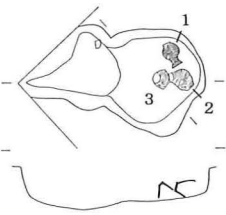
厚木市及川に所在し、丹沢山地南麓の台地端部緩斜面上に立地する。土坑9基が検出された。1号土坑は丸胴の土器を埋納するように掘られ、3号土坑からは怒田上原遺跡1号土坑と同様に2点の土器底部（第3図13・14）が出土した。4号土坑からは甕（同図12）が潰れた状態で覆土中から出土し、5号土坑は3点（同図8～10）の土器が認められた。大型の条痕文壺（10）が完形の状態で埋納され、その他の個体については坑底近くで破片の状態になって出土しているため、単棺の墓址と考えられる。

（5）戸室子ノ神遺跡（第4図上段左）

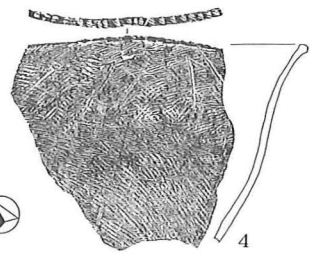
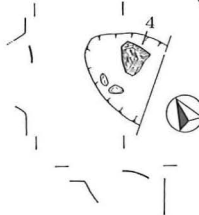
厚木市戸室に所在し、相模川の支流である小鮎川右岸の河岸段丘上東縁に立地する。遺跡の標高は約45mを測る。中期中葉の住居址が散在している中に、やや距離をあけた位置に土坑が1基検出された。土坑からは完形の壺1点（第4図16）が坑底に横倒しになった状態で出土したほか、小型の壺または有文甕の破片（同図15）が出土した。土器の様相から、中期中葉の古い段階に帰属する土器棺墓等、単棺の墓址と考えられる。

怒田上原遺跡

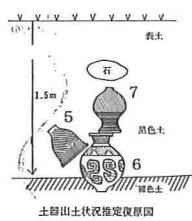
A地区1号土坑



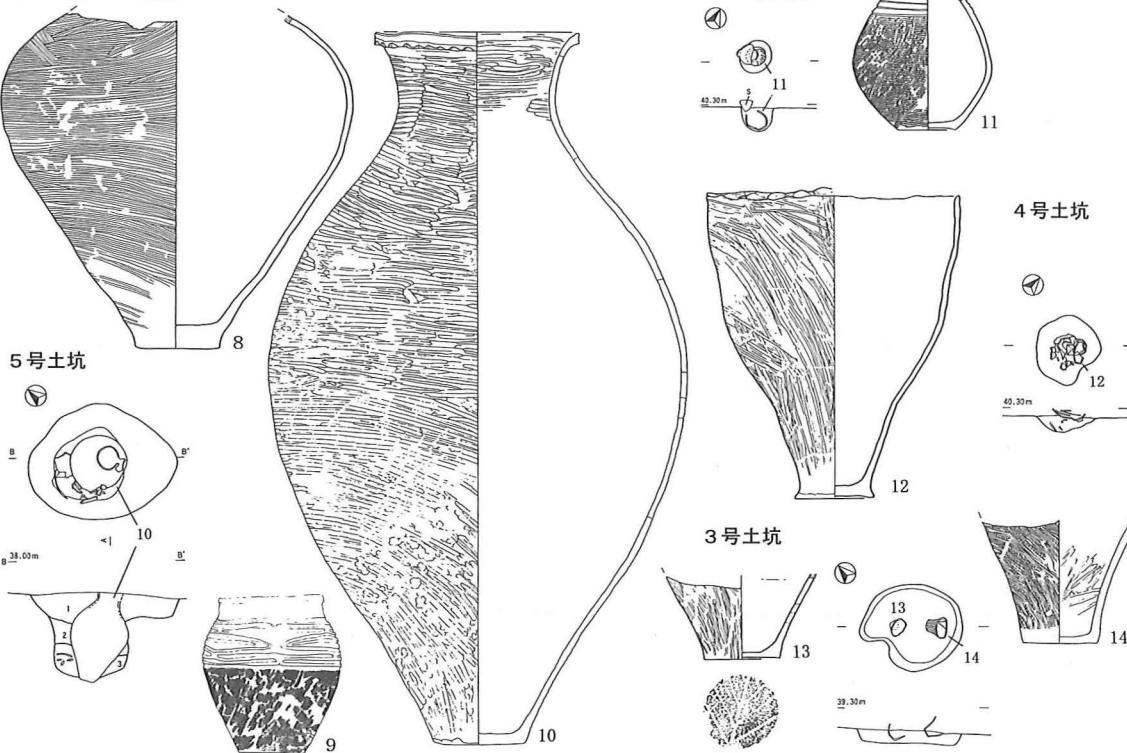
A地区3号土坑



平沢同明遺跡



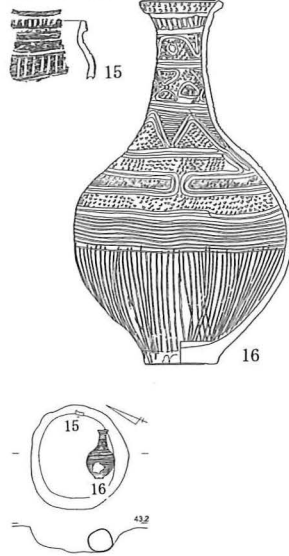
及川宮ノ西遺跡



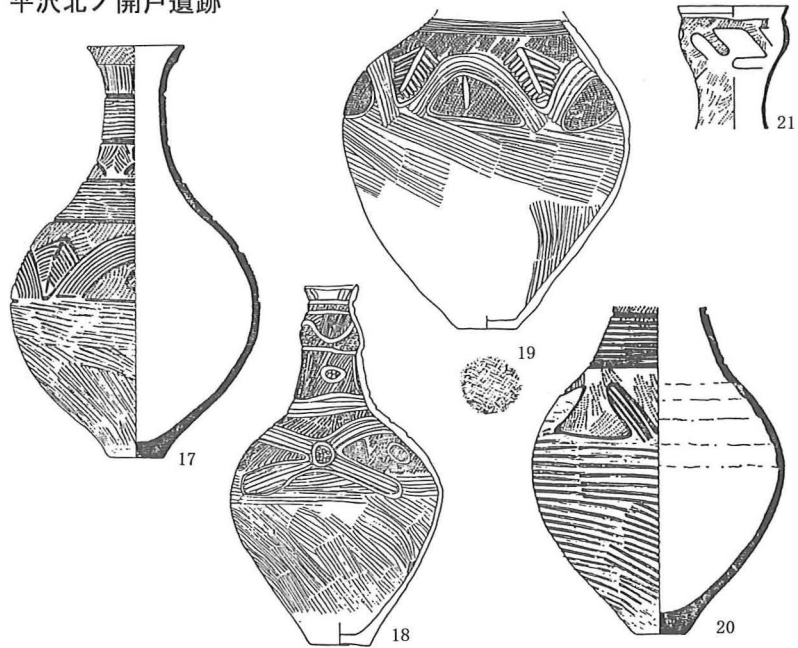
第3図 神奈川県内の土器棺関連資料(1) [遺構図1/60、土器1/8]

戸室子ノ神遺跡

第11号土坑

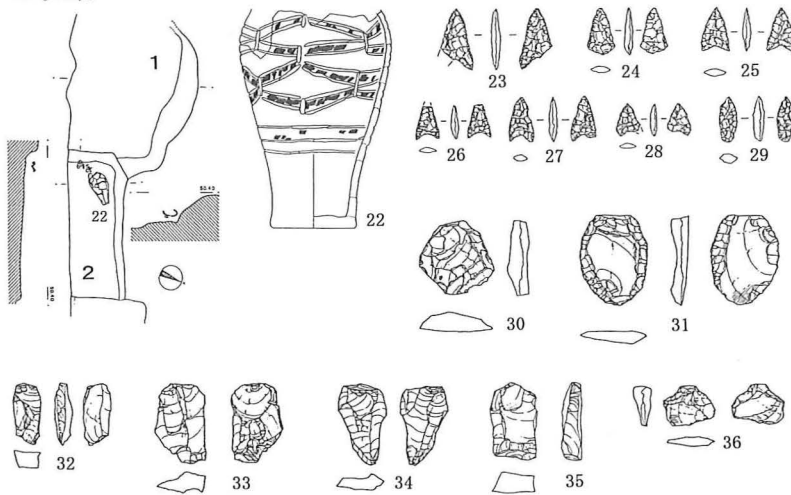


平沢北ノ開戸遺跡

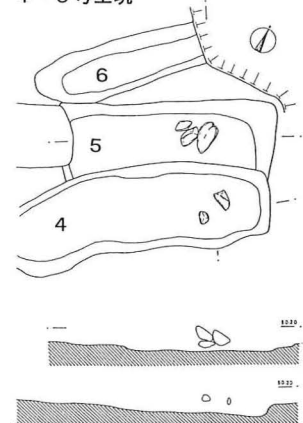


岡津古久遺跡

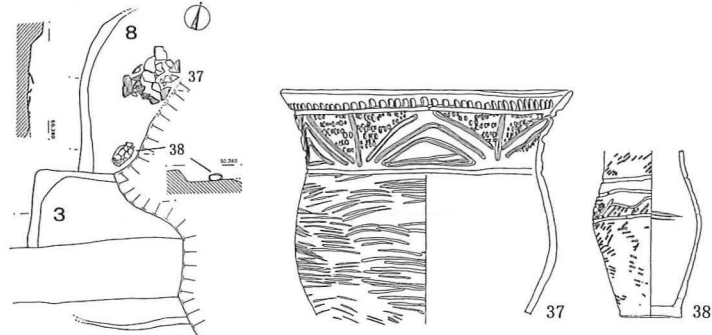
2号土坑



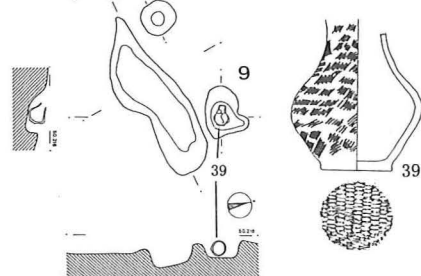
4～6号土坑



8号土坑



9号土坑



第4図 神奈川県域の土器棺関連資料（2）〔遺構図1/60、土器1/8、石器1/4〕

(6) 平沢北ノ開戸遺跡(第4図上段右)

秦野市平沢に所在し、立地も平沢同明遺跡と同様である。この遺跡では農作業中に中期中葉の壺形土器等(第4図17~21)が発見された。埋没状況の詳細は不明であるが、報文では地表下1.3~1.4mのところに「略々併列する状態で発見され、土器の中には黒土が充満し」ていたという(亀井 1955)。このうち壺1点(20)の内部からは「極めて細かな無数の生後間もない乳児骨が検出」したとのことである。こうした検出状況と、周囲を試掘したところ何も出土しなかったことから、一定の範囲に埋納したものと推定されている(註3)。

(7) 岡津古久遺跡(第4図中段)

厚木市小野に所在し、丘陵上の先端部に立地する。平面が長方形を呈し主軸方向を同じくする土坑11基を検出している。他の事例と最も異なる点は、遺構同士にかなりの頻度で重複が認められる点である。2号土坑からは西端の坑底に横倒しになった状態で胴の長い壺(第4図22)と、主として緑色凝灰岩や頁岩製の打製石鏃(同図23~29)、スクレイパー(同図30・31)、剥片類(同図32~36)が出土した。8号土坑からは有文の甕(37)、小型の壺(38)が坑底に横倒して潰れた状態で出土し、9号土坑は小型壺(39)が坑底に横倒しになった状態で出土している。このほか4・5号土坑からは緑色凝灰岩の原石が埋置した状態で出土しており、報文では特定の石材を用いた何らかの祭祀的な性格を想定している。一方で土坑墓の副葬品として評価もみられ(大島 1988)、いずれにせよ所謂「壺棺再葬墓」とは異なる性質の遺構群であるものと考えられる。

(8) 中里遺跡第Ⅲ地点(第5図)

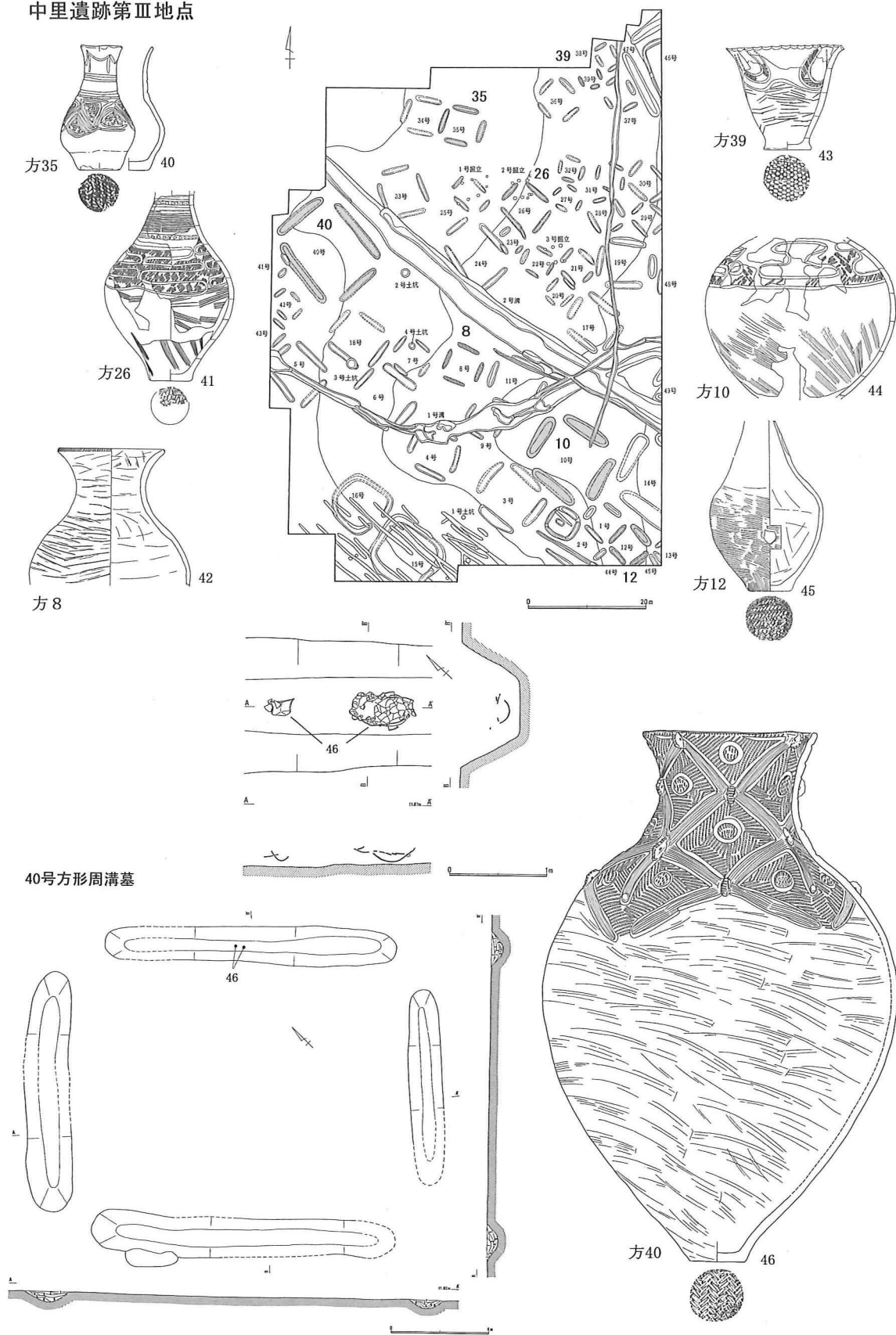
小田原市中里に所在し、相模湾北西部沿岸(足柄平野東南部)の標高約10m前後の沖積微高地に立地する。第Ⅰ地点で確認された集落域に対して、第Ⅲ地点では方形周溝墓46基が検出された。このうち7基の周溝内から、中期中葉の土器が出土している。報文では、その他の39基も弥生中期に帰属するものと考えられている。出土した土器の殆どは壺(第5図40・41・44・45)か広口壺(同図42・46)で1点のみ有文甕(同図43)がみられる。壺の最下段文様帯が拡大している傾向にあり、文様帯構成から見ても、弥生時代中期中葉でも新しい様相の土器群として評価できる。40号方形周溝墓からは北溝の溝底近くより、器形・文様構成の点からみても類例の少ない大型広口壺(同図46)が横倒しになった状態で潰れて出土している。(櫻井・渡辺)

まとめ

これまで概観してきた県内の前期~中期中葉の墓址を分類すると、以下の四つに大別出来る(註4)。

- (1) 土器棺墓：主として壺形土器を蔵骨器とし、単棺もしくは他の土器を上位から被せたり、合わせ口にした状態で埋納するもの。怒田上原、平沢同明、及川宮ノ西、戸室子ノ神の各遺跡で事例を検出しているほか、岡津古久遺跡の一部にもその可能性が考えられる。及川宮ノ西遺跡の1号土坑のように、土器棺を埋めるのに必要な最低限度の大きさの穴を掘り、土器を埋置する場合もみられる。単棺再葬墓の可能性あり。
- (2) 土坑墓：土坑内に土器の完形品や破片、その他の遺物を副葬品として埋納するもの。怒田上原3号土坑、及川宮ノ西4号土坑、岡津古久2号・4~6号・8号土坑などが想定される。
- (3) 再葬墓：一度土中に埋めるなどした人骨の一部を選択して土器に収め、複数の土器棺を土坑内に埋めるもの。本県ではそうした出土状況を確認出来た事例はなく、平沢北ノ開戸例はその可能性が考えられる。
- (4) 方形周溝墓：所謂「四隅切れ」を呈する、周溝墓の中でも古い様相のものである。周溝内から希に土器が出土する。県内では中里遺跡第Ⅲ地点例のみ。

中里遺跡第Ⅲ地点



第5図 神奈川県域の土器棺関連資料(3) [遺構図1/120・1/60、土器1/8]

神奈川県内出土の弥生時代土器棺(1)

第1表 神奈川県域における土器棺関連遺構

No.	市町村	遺跡 No.	遺跡・地点名	遺構名	遺物名	土器 数量	時期	備考	図番号
1	南足柄市	1	怒田上原遺跡A地区	1号土坑	壺その他	3	前期	土器棺墓か	3-1~3
2				3号土坑	甕	1	前期		3-4
3	秦野市	2	平沢同明遺跡	—	壺、甕	3	中期中葉	土器棺墓か	3-5~7
4	厚木市	3	及川宮ノ西遺跡	1号弥生土坑	壺	1	中期前葉	土器棺墓か	3-11
5				2号弥生土坑			中期前葉		
6				3号弥生土坑	土器底部	2	中期前葉		3-13・14
7				4号弥生土坑	甕	1	中期前葉		3-12
8				5号弥生土坑	壺、小型壺	3	中期前葉	土器棺墓	3-8~10
9	厚木市	4	戸室子ノ神遺跡	11号土坑	壺、小型壺	2	中期中葉	土器棺墓か	4-15・16
10	秦野市	5	平沢北ノ開戸	—	壺その他	8	中期中葉		4-17~21
11	厚木市	6	岡津古久遺跡	1号土坑	—	—	不明		
12				2号土坑	壺、石器	1	中期中葉		4-22~36
13				3号土坑	—	—	不明		
14				4号土坑	礫	—	不明		
15				5号土坑	礫	—	不明		
16				6号土坑	—	—	不明		
17				7号土坑					
18				8号土坑	甕、小型壺	2	中期中葉		4-37・38
19				9号土坑	壺	1	中期中葉		4-39
20				10号土坑					
21				11号土坑					
22	小田原市	7	中里遺跡第Ⅲ地点	8号方形周溝墓	壺	1	中期中葉		5-42
23				10号方形周溝墓	壺	1	中期中葉		5-44
24				12号方形周溝墓	壺	1	中期中葉		5-45
25				26号方形周溝墓	壺	1	中期中葉		5-41
26				35号方形周溝墓	小型壺	1	中期中葉		5-40
27				39号方形周溝墓	有文甕	1	中期中葉		5-43
28				40号方形周溝墓	大型壺	1	中期中葉		5-46

これまで本県では、「弥生時代中期中葉以前の墓制＝再葬墓」という認識で墓制・葬制を分析する傾向が強かったが、土器棺の出土事例を検証した結果、むしろ土器棺墓や土坑墓、もしくは単棺再葬墓のいずれかである可能性が出てきた。いずれにせよ従前の複棺の壺棺再葬墓そのものの確実な事例は県内に存在せず、その実態は今後も調査事例の蓄積と検証が必要である。また中期中葉の新段階における前代の墓制と方形周溝墓の併存については、中里遺跡の他は埼玉県熊谷市池上・小敷田遺跡、千葉県袖ヶ浦町向神納里遺跡、同県君津市常代遺跡で中期中葉新段階の方形周溝墓の事例がみられるが、常代遺跡では同じ墓域で中期後葉段階の「宮ノ台式」土器の時期まで継続して造られている。こうした方形周溝墓出現期における地域性と時期の相違については、後期までを含めた次年度の検討課題としたい。(渡辺)

註

(註1) 従来こうした事例を複棺の「壺棺再葬墓」(石川1987など)と総称してきたが、近年の研究では葬法や「棺」の呼称、葬制の帰属時期等の評価をめぐって「弥生再葬墓」(設楽2011)、「壺再葬墓」(石川2011)等の概念が提唱されている。

(註2) 各地域で葬制が細かな違いを見せるのに対し、集落遺跡の発見が後続する中期後葉段階と比べて少ない傾向にあることも、東日本全域における該期共通の事象である。本県における事例では小田原市中里遺跡や平塚市王子ノ台遺跡、厚木市子ノ神遺跡、また他の都県では埼玉県熊谷市池上・小敷田遺跡、岩槻市南遺跡、東京都利島ケッケイ山遺跡などで中期中葉段階の居住址が検出された。これらの検出例よりも古い段階の資料として、山梨県北杜市の柳坪遺跡では条痕文期の竪穴住居が確認はされているものの、遺構内部調査が行われておらず詳細は不明のままである。

(註3) 但し、亀井氏は平沢北ノ開戸遺跡出土の土器群の評価については、報文中で「通常の包含地の如き居住地の遺跡として考へる事は出来ず」、「明かに意識的に埋納せられた結果としか考へることは出来ないであらう。」としながらも、「然しながらこの時期の遺跡に屢々見られる如き、ピット状の凹所から出土したものかどうか、出土地点の再調査を実施してみない現在早急に断定する事は出来ない。」と慎重な態度をとり、遺構としての評価は保留している。

(註4) 今回の神奈川県域における弥生墓制の分類については、(大島1988)にみる墓制の仮分類基準を参照した。

【参考文献】

- 安藤広道2005 「東日本弥生墓制の地域差・時期差が意味するもの」『季刊 考古学』第92号 特集 弥生墓制の地域的展開 雄山閣
- 青木 豊・野本孝明1987 「神奈川県岡津古久遺跡の弥生時代中期前半の土器と土坑について」『國學院大學考古学資料館 紀要』第3輯
- 石川日出志1987 「9-10. 再葬墓」『弥生文化の研究』8 祭と墓と装い 雄山閣
- 2011 「再葬墓の終焉と祭祀」『一般社団法人日本考古学協会2011年度栃木大会 研究発表資料集』シンポジウムⅡ 考古学からみた葬送と祭祀 日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会
- 大島慎一1988 「神奈川県の墓制資料—再葬墓・土器棺墓・土坑墓—」『第9回三県シンポジウム 東日本の弥生墓制—再葬墓と方形周溝墓—』群馬県考古学研究所・千曲川水系古代文化研究所・北武蔵古代文化研究会
- 2000 「第四章第1節 出土遺物の分析」『王子ノ台遺跡』第三巻弥生・古墳時代編 東海大学校地内遺跡調査団
- 書上元博ほか1986 『埼玉県児玉郡神川村 前組羽根倉遺跡発掘調査報告』前組遺跡発掘調査団
- 加納 実ほか1996 『市原市武士遺跡1』千葉県文化財センター調査報告第289集 財団法人千葉県文化財センター
- 亀井正道1955 「相模平沢出土の弥生式土器に就いて」『上代文化』第25輯
- 河合英夫2012 「中里遺跡の実像—発掘調査で明らかになったこと—」『シンポジウム 弥生ムラの出現とその背景 発表要旨』小田原市教育委員会
- 神澤勇一ほか1969 『神奈川県考古資料集成』1 弥生式土器 神奈川県立博物館
- 呉地英夫・河合英夫1997 『中里遺跡第Ⅲ地点発掘調査報告書』小田原市文化財調査報告書第61集 小田原市教育委員会
- 設楽博己1991 「最古の壺棺再葬墓—根古屋遺跡の再検討—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第36集
- 1993 「壺棺再葬墓の基礎的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第50集 故土田直鎮館長献呈論文集
- 2008 『弥生再葬墓と社会』塙書房
- 2011 「弥生再葬墓の成立と祭祀」『一般社団法人日本考古学協会2011年度栃木大会 研究発表資料集』シンポジウムⅡ 考古学からみた葬送と祭祀 日本考古学協会2011年度栃木大会実行委員会
- 杉原荘介1981 『栃木県出流原における弥生時代の再葬墓群』明治大学文学部研究報告 第8冊
- 杉山博久1967 『秦野市平沢出土の弥生式土器について』
- 1989 「3 怒田上原(ぬだうえばら)遺跡」『南足柄市史』1 資料編 自然・原始・古代中世 南足柄市
- 秦野市史編さん室1985 『秦野市史』別巻 考古編 秦野市
- 春成秀爾1993 「弥生時代の再葬制」『国立歴史民俗博物館研究報告』第49集 共同研究「葬墓制と他界観」
- 日野一郎・香村紘一ほか1996 『及川宮ノ西遺跡』国道412号線遺跡発掘調査団
- 望月幹夫・山田不二郎ほか1998 『子ノ神(Ⅳ)』厚木市教育委員会